

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・四季の変化の学習では、身近な生活に関する自分との関わりを確認したり、実際に外に出て動植物の観察をしたりすることによって、四季の様子がどのように変化するのか気付くことができた。
- ・一人一人の児童が植物を育てられるような工夫することによって、意欲的に活動に取り組むことができた。また、飼育・栽培の過程で変化や成長、世話の仕方などを学習することができた。
- ・おもちゃ作りでは、一人一人が思いを実現できるような材料や場の設定をした。友達と関わり合い、試行錯誤しておもちゃを作ることで、工夫するよさや面白さに気付くことができた。また、自分や友達のよさに気付くことができた。

(2) 課題

- ・意欲的に取り組めない児童もいるため、年度初めには、児童の実態を考慮した上で年間の単元計画を確認する必要がある。また、教材や教具を準備したり(地域との連携を含む)、個々に問題解決できる場を設定したりする必要がある。
- ・自分の思いや考えを表現できない児童がいるため、教師が言語化できるよう指導したり、表現方法を掲示したりする必要がある。また、声かけやワークシートを工夫していく必要がある。

2 分析(観点別)

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験をすることは、意欲的に楽しんで行っている。 ・学習過程の中で社会や自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付かずにいることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力や書く力がまだ十分についていないので、気付いたことを思うように表現できないことがある。 ・表現の型を示すと、それをもとに気付いたことや思考したことを表現する。しかし、その型にとらわれ、型に指定されていないことに気付いていても表現しないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された活動や体験をすることは、意欲的に楽しんで行う。 ・より豊かにしようと、遊びや物を創り出したり、活動を工夫したりすることのできる児童は少ない。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・単元のねらいに即した活動の展開を図るため、児童一人一人の気付きを教師がみとり、言葉・絵・動作化などできるように支援する。 ・児童の気付きを深めるために教師が意図的な言葉掛けや問いかけの工夫をする。 ・体験活動を行うことができるよう、児童の活動時間を十分に設ける。 ・具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察では視点を事前指導し、観察したことを表現する語彙を増やす。(大きさ、長さ、色、形、におい、音、味、触感など) ・表現力や思考力を養うために、体験したことや調べたことを伝え合う場を設ける。自分が発見したと友達が発見したことを比べ、共通点や相違点を見付けることができるよう指導する。 ・考えたり気付いたりしたことをカードに書いたり、個人やグループ等で発表したりする時間を設け、思いや情報を共有できるようにする。 ・国語科の書く領域と関連付け、気付いたことを分かりやすく説明する力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が学習に対して自分の思いや願いがもてるような個別支援をする。 ・「やりたい」「知りたい」と思うような導入の工夫をする。 ・「自然事象について気付いたこと」「おもちゃ作りの活動などを通してもっとやってみたいこと」を出し合い、児童の思いや願いが深まり、広がる振り返りの工夫をする。 ・公園遊びや地域調べなど、地域の人々や社会及び自然との関わりがもてる素材を教材にし、児童の思いや願いを活かせるよう学習を計画する。 ・児童にとって身近な環境である多摩川を学習に取り入れて指導する。